

第54回車座集会（中原区） 摘録

- 1 開催日時 令和5年2月10日（金） 午後3時30分から午後5時30分まで
- 2 場 所 川崎市総合自治会館
- 3 参加者等 52名（参加者20名、傍聴者約32名）

<開会>

司会：定刻となりましたので、ただいまから第54回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます中原区役所企画課の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「Nakahara Actions for KAWASAKI 100th」と題して、川崎市制100周年に向けた中原区の魅力づくり、魅力発信を目的に、市長と参加者の皆さんで、意見交換を行っていただきます。

まず、本日ご参加の皆様から、自己紹介をお願いいたします。皆様のプロフィール等につきましては、お手元の出席者名簿にごございますのでご参照ください。自己紹介は、ご所属、お名前と合わせて、事前アンケートでお答えいただいております中原区の魅力、なかはらのイチオシ！についてもお教えてください。お1人当たり1分程度でよろしくお願いいたします。

それでは、順番をお願いしたいのですが、50音順に井上様からお願いいたします。

皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

井上さん：はじめまして。株式会社井上植木の井上ひとみと申します。

ちょっと今日、会社というよりも個人的なお話が多いかと思えますけれども、私は横浜市から嫁いで来まして、もうそれでも中原区民の人生のほうが長くなりました。音楽と花と食べることが大好きですが、私の中原区のイチオシは、私の住んでいる武蔵新城駅周辺でして、武蔵新城は本当にもう都会で、お買物とかも何も困ることがないですが、ちょっと一歩道路を隔てて隣の道路に行くと、川が流れていたりとか、大きな畑があったりとか、そういうちょっとした田園風景が見られて、その差がとてつよくて、それが何となく私にはとてもお気に入りの場所となっております。本日はよろしくお願いいたします。

伊早坂さん：伊早坂遥と申します。名字がちょっと分かりづらいので、シチューという愛称で呼ばれております。エリアプラットフォームという組織の代表として、本日伺いました。

エリアプラットフォームは、武蔵小杉を周辺に、事業を営む構成メンバーの皆さんと社会実験や研究等の会議を行っている団体です。今日いらっしゃる方ですと、グランツリーさん、それから東急スクエアさん、NECさん、かわさきFMさん、それからNTTさんやJR都市開発さんなど、様々な事業者が一体となって年間を通してプロジェクトを行っています。個人的には、井上ひとみさんと同じ武蔵新城在住でございます。それから、あとはかわさきFMさんでラジオ番組をやって7年目でございます。よろしくお願いいたします。

イチオシは、かわさきFMのかわさきショウタイム コスギスイッチON！というラジオ番組で、武蔵小杉を中心に川崎の魅力を発信して7年、生放送番組ですので、ぜひよろしくお願いいたします。

岩田さん：はじめまして、岩田尚子と申します。私、富士通に所属をしております、川崎市様と連携協定を結ばせていただきまして、様々な地域の課題を解決する取組というのを、デジタルを力に挑戦をさせ

ていただいております。

私の中原のイチオシですけれども、武蔵小杉エリアが大好きで、大学時代から通学ですずっと使っていたんですけれども、乗換えの隙間にいかに楽しむかというところを個人で楽しく、武蔵小杉エリアでいろんなことをしながら過ごさせていただいております。

今日はよろしく願いいたします。

岩永さん：こんにちは。川崎フロンターレの岩永と申します。ご存じいただいている方が多ければうれしいですけれども、川崎フロンターレというのはJリーグ、サッカーのクラブでして、川崎市をホームタウンとしてやっているクラブでございます。

自己紹介のところにちょっと書いていますが、プロのサッカーチームの試合興行に限らず、基本的な考え方は、このまちがもっと楽しい元気なところになればいいなと、そういう理念でやっているのが川崎フロンターレでございますので、こういうところで皆さんと一緒に議論できるのをうれしく思っております。

私自体はその試合の統括責任者をもう10年以上やっていたんですけれども、並行して等々力緑地の今再編整備等々を川崎市の方々ともお話ししながら一緒にやってきました。現在はホームタウン担当として、地域の皆様と一緒にあって、どういう楽しいことをやっていけるかなというところを目指しているところです。

イチオシは書いていますとおり、このまちは本当にいろんなことが興りそうだなということを期待しております。よろしく願いいたします。

佐々木さん：皆さん、こんにちは。同じくフロンターレの佐々木と申します。

私は10年間スクールのサッカーのコーチをやっております、4年間施設の運営も携わらせていただきまして、現在はプロモーション担当ということで、試合のイベントとか、プロモーションで各区の担当を1人つけているんですけれども、私は中原区さんの担当をやらせていただきまして、いろんなまちの楽しい取組をやっているところでございます。

私のイチオシなんですけど、先ほど岩田さんからもお話がありました、僕も武蔵小杉駅周辺がすごく大好きで、よく区役所さんに出入りさせていただいているんですけれども、そのついでにいろんな楽しいところに行ったりとか、もちろん仕事の時間なんですけど一応視察ということで行かせていただきました。すごくまちの雰囲気がお気に入りの地域になっております。

今日はどうぞよろしく願いします。

宇賀神さん：こんにちは、はじめまして。私、ポーラスターの宇賀神と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私は、武蔵小杉地区周辺でボランティア活動をしておりまして、皆さんの地域課題である関わりづくり、地域の方に関わることがちょっと難しいと考えられている方が多くて、こちらのほうで簡単な敷居の低いラジオ体操を中原区役所の広場で行っております。そこに集まった方々と地域のことについての情報発信や地域の団体の方に来ていただいて、一緒に交流の場を持っています。ただつながるだけではなくて、その先に困ったときに誰かにつながろうというそういうきっかけづくりを行っております。

私のイチオシは、武蔵中原駅のホームなんですね。そこで朝は富士山が見えるとか、夕方はまちの夕焼け、もう夕日が映えるまちを見るのがすごく好きです。どうぞよろしく願いいたします。

岡田さん：こんにちは、はじめまして。NECレッドロケッツの岡田と申します。

NECレッドロケッツは、VリーグDIVISION1というリーグに所属しているバレーボールチームになります。ホームタウンは川崎市というところで、バレーボールだけではなくて、社会活動、バレーボール教室であったり、あと清掃活動というところも一緒にさせていただきながら、できる限りまちの貢献をできるような形で取組を行っているところです。

私はもともとすぐ前にバレーボールの選手として実施していたこともありまして、現在はスタッフとしてマネジメントをさせていただいている次第です。

中原のイチオシというところですが、やはり等々力緑地というところで、我々ホームアリーナが等々力アリーナというところであります。そこで多くの皆さんに、川崎市の皆さんに見ていただいて、できる限り感動とか勇気を与えられるような活動を今後もしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひします。

古家さん：はじめまして、富士通企業スポーツ推進室、古家と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私、企業スポーツ推進室ということで、アメリカンフットボール部と女子バスケット部の企業スポーツを通じて、社会貢献活動に従事している者です。

かつ、私も中原区民という形で、関西から転勤して約6年になるんですけど、中原区がすごく好きで、いろいろこういった形でも今日の車座集会にお呼びいただいたという形で、何か貢献できるようなことをやっていければと思っております。

イチオシについては、ふだんお世話になっているやっぱり等々力緑地ですね。こちら、今日フロンターレさん、レッドロケッツさんがおられますが、やっぱり各地域でもスポーツというところ、川崎市はやはり注目されている地域でもございますので、等々力緑地を中心として中原区、川崎市を盛り上げていきたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

佐野さん：はじめまして。佐野デザイン事務所の佐野と申します。

中原区に住んで約20年になるんですけども、ふだん中小企業の皆さんと商品開発から何か形にしていくデザインを主にやらせていただいている、今、商工会議所のデザイン専門家相談員というのを担当してまして、いろんな相談を受けるんですね。そこでちょっと気づいたことは、中原区及び川崎市の企業さんは、いろんなポテンシャルが高いなど、それをちょっとずつデザインでよくしていければと思っけて日々携わっています。

一番身近なところでは、2年前に中原区役所のリニューアルをさせてもらったんですけども、そのとき木をたくさん使って、ちょっと変わったしつらえにしたのが、皆さんなじみが多いかなと。

あと、フロンターレサポーターでもあるので、今日もユニフォームが届いて、来週開幕ですし、日々ジョギングもしているので、とてもイチオシの場所です。よろしくお願ひします。

島田さん：こんにちは。グランツリー武蔵小杉の島田と申します。

グランツリー武蔵小杉ですけども、今年で開業9周年を迎えることができました。開業時、掲げたテーマは「愛」というものです。「愛」はいろんな意味があるんですけども、やはり地域の皆様に愛される商業施設を目指して日々奮闘しております。

やはり小杉の魅力としては、先ほどもお話がありましたとおり、大変スポーツの盛んな地域でございますので、私自身もスポーツはやるのも見るのも非常に大好きな人間なものですから、やはりこういうところで働けることに非常に喜びを感じております。今日は1日よろしくお願ひいたします。

園部さん：はじめまして。社会福祉法人ともかわさきから参りました園部と申します。どうぞよろしくお願

いたします。

私は社会福祉法人ということで、障害福祉のほうをメインにやっております。ここでは、ともかわさきを通じて地域の皆さんとそれから障害者をつなぐ役割をしています。そして市のほうでは、ダンスラボラトリーという団体を持っています。こちらはダンスを通じて、やはりまちの皆さんとそれから障害の人たちとをつなぐという、どちらにしてもつなぐことがメインのお仕事になっております。

レッドロケッツさん、ありがとうございます。何年前にハーフタイムショーで出させていただきました。地域の皆さんに根づいていくというふうな形のことを考えて、いつも活動を行っております。これからは小杉、それから中原、新城とかいろいろなところで活動をしていければと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

高田さん：はじめまして。海苔問屋の高喜商店の高田保と申します。よろしく願いいたします。

事業としましては、海苔の仕入れ、競売のほうに直接買い付けに行きまして、仕入れから保管、製造からあと販売まで全て行っている海苔問屋でございます。場所と言いますと、木月4丁目になりまして、木月4丁目の大きな交差点の近くにございまして、綱島街道沿いに面してございまして、ガラス張りになっていて中の工場が全て見えるような形を取らせていただいております。ぜひお近くに来る際には、焼きたての工場の焼き海苔の匂いであったりそういうものも感じながら、海苔をぜひ焼きたてのものをお買い求めいただければと思います。

私個人としましては、生まれも育ちも中原区でして、一番お勧め、イチオシのところと言いますと、緑がとても多いところですね。いろんな商業施設だったりいろいろ発展されているものが多い中でも、緑の地域がとても多いので、そういう憩いの場と共存しているところが、とても魅力的だと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

橘さん：はじめまして。株式会社E s s e n、橘と申します。

私たち、中原区発のスタートアップといった会社になってございまして、地域のドライバーさんからデータを頂いて、そのデータを基に新たに価値を創出することで、ふだんの走行が収入源になるような、そんなサービスを提供しております。

私のイチオシですけれども、現在私、東京大学大学院の大学院生ですけれども、ずっとデータ解析の研究をございまして、その辺りで自分の専門性を生かして何か社会に価値を還元したいというときに、新丸子駅近くのたから舟さんというお寿司屋さんに行きまして、その常連さんにたくさん応援をいただいて、かわさきFMにも出演させていただいて、この川崎市中原区で起業したきっかけになったというところで、私のイチオシの特においしいところになってございまして。本日はよろしく願いいたします。

塚越さん：皆さん、こんにちは。私、武蔵小杉東急スクエアという武蔵小杉駅、東急線の武蔵小杉駅と直結しているショッピングセンターを運営している会社におります塚越と申します。よろしく願いいたします。

先ほどグランツリーさんも9周年ということをおっしゃっていましたが、東急スクエアも今度4月2日にちょうど10周年を迎えるところです。もちろん我々は商業施設なので、物を売るということ、お客様を呼んで物を売るということをやっているんですけれども、ここ最近、この街大スキ武蔵小杉というホームページを立ち上げまして、その中で定期的に武蔵小杉のまちとか、あとは人の魅力を発信するようなサイトを今つくっておりますので、皆さん、お時間ありましたらぜひ見ていただければと思います。

私のイチオシですけれども、武蔵小杉駅の前にありますコスギコアパークという公園がありまして、ちょっとコロナでこの3年ほどやっていないんですが、コスギフェスタというイベントが毎年あります。ここはハロウィンの時期にやっていて、子供たちが仮装してそのイベントに参加をして、その後我々の東急スクエアのフォトスポットに、その仮装の格好のまま皆さん楽しそうにやってきていただけるといイベントだったので、まちを挙げたすごくすてきなお祭りだなと思っていましたので、コロナも明けたところでまた復活してもらえるといいなと思っております。

それでは、今日はよろしく願いいたします。

角田さん：はじめまして。中原駅のすぐそばにある西中原中学校のPTAを務めさせてもらっています角田と申します。よろしく願いします。

コロナ禍で生徒と地域が離れ離れになって、全然交流がない中で、何かできないかと思っていたときに、ご近所さんぽのお話があって、そこにちょっとイベントで参加させてもらったときに、チャンスは今だと思って、12月に散歩しながら大人たちだけでまずごみ拾いをして、今月の末に西中原中学校と一緒にごみ拾いをして、それがどんどんつなげられればと思っています。

よろしく願いします。

中田さん：皆さん、こんにちは。トレンドマスター株式会社、中田と申します。

中丸子でコミュニケーションロボットの企画から製造販売を行っているメーカーでございまして、KIS認証などをいただいております。なでると鳴くというふうになっていて、頭とそれから背中にセンサーがついていて、うちの猫がそうなんですけど、尻尾を握ると嫌がる。怒る。それから顎をなでるとゴロゴロ言う。

こういうような仕組みを備えたかわいいロボットですね。お子様のみならず若い女性でも、もしくはお年寄り、高齢者福祉用品として優良であるということで、KIS認証をそれぞれいただいております。猫もあれば犬もあれば赤ちゃんもいるというような状況の中で、初めて認証をいただいてからもう7年たって、そろそろ飽きがきているなということがありまして、何と川崎市のように、渋谷の忠犬ハチ公も生誕100周年が今年でございまして、ハイクオリティなバージョン、それから、伝統工芸的な手塗りの縫いぐるみになっておりますが、このアメショーがこちらのアメリカンショートヘアにグレードアップして、再登場というような状況でございまして。

経済労働局の技術担当の皆様からは、中田さん、このデラックスで認証されているんだから、これ機能は同じなんだからそのまま認証しますと言われております。引き続き、よろしく願いいたします。

中野さん：はじめまして。中原区の元住吉の駅のそばに木月という住所がありまして、木月2丁目町会の町会長を仰せつかっています中野博と申します。よろしく願いいたします。

生まれも育ちも68年間木月2丁目ということで、何とか自分の近くを盛り上げたいということで、今は花の世話とかそういうのを細々とやらせていただいております。

イチオシなんですけど、あそこの元住吉の駅はオズ通り商店街とブレーメン通り商店街、2つございまして、あと中ノ町の商店街と、奥のほうにあるんですが、そこで有志の方なんかいろいろ催物をやられるので、その中でもとすみフラメンコというのがありまして、皆さんアーティストを中心にやっていらっしゃるんで、これが私のイチオシになります。ひとつよろしく願いいたします。

畠山さん：こんにちは。かわさきFMの畠山と申します。本日はよろしく願いいたします。

かわさきFMは、武蔵小杉の北口歩いて3分のところに、サテライトスタジオを構えてございまして、

本日まで出席されている方々にも何度もラジオのほうにご出演いただきまして、ありがとうございます。

少し会社の説明をさせていただきますと、弊社は平成8年7月1日に開局いたしまして、神奈川県で6番目、全国では34番目に開局した地域に根づいているコミュニティーのFMラジオ局になります。ふだんは市民の暮らしに役立つ生活情報をはじめ、市政情報、イベント情報、スポーツ情報、またフロンターレさん、ブレイブサンダースさんのスポーツ中継なども行っております。

私の個人的な話としましては、40年ぐらい川崎在住ですけれども、そのうちの20何年かは武蔵小杉に住んでおりまして、イチオシのスポットとしましては、渋谷沿いの桜並木というふうにスポットを紹介させていただきたいと思います。住んでいたところはすぐ脇に桜並木があるところで、満開になると本当にすばらしい桜並木になりますので、もしご覧になっていない方はいらっしやらないと思いますけれども、桜の時期にはお楽しみいただければと思います。

よろしく願いいたします。

守矢さん：こんにちは、はじめまして。NECプロボノ倶楽部の守矢と申します。よろしく願いいたします。

私自身は武蔵小杉に住んで今年で5年目になります。NECプロボノ倶楽部は、NECグループ社員の皆さんが、スキルを生かしながら様々な社会課題の解決に向けて活動を行っております。私はなかはらペットフレンドリー実行チームの代表を務めております。そこでは「ペットと人の幸せな共生」というのをテーマに活動を行っております。

私のイチオシですけれども、まさにこの下にあります3rd Avenue FoodMarketで、開放的なテラスでわんちゃんと一緒に食事ができますので、私もよく愛犬と一緒に食事をしていました。今日はどうぞよろしく願いいたします。

吉家さん：皆様、こんにちは。朝日プリンテック川崎工場の工場長をしております吉家と申します。名前のお通り、朝日新聞の印刷をしている工場です。97年から西加瀬のほうでお世話になっております。97年に創業した頃は新聞の部数も800万以上だったんですけど、今半分以下になってしましまして、朝日新聞だけでは利益がなかなか上がらないということで、東京新聞ですとかいろいろなものを刷っています。フロンターレ新聞というものも刷ったりしておりますので、地域のために何か役に立つことがあれば何でもやりますので、よろしく願いいたします。

私はここに来て2年ちょっとということになります。ちょうど工場の横を新幹線の高架が通っていて、見ているとトンネルに、慶應大学の下に新幹線が入っていくところがあるんですけど、そこが非常に私のイチオシのスポットであります。ぜひあそこに展望台があったら、子供たちと一緒に見られるのかなと思ったりしております。今日は楽しくやりたいと思います。よろしく願いいたします。

司会：皆様、ありがとうございました。

続きまして、行政からの出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしく願いいたします。

司会：そして、板橋茂夫中原区長でございます。

中原区長：よろしく願いいたします。

司会：それでは改めまして、開会に当たりまして福田市長からご挨拶申し上げます。

市長、お願いいたします。

市長：改めまして、皆さん、こんにちは。

今日は第54回の車座集会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

今、お話を伺った20名の方々、すごく様々で多様なという、Colors, Future! いろいろって、未来。というのが川崎のブランドメッセージになっておりますけれども、まさにColors, Future! と、いろんな方たちがこんなに集まっているんだな、魅力が満載だなというふうに思いました。

今度川崎市は、来年100周年を、市制100周年という大きな節目を迎えますが、市制100周年って一体何なのと。ただ市ができて100年ただただじゃん、だから行政で何か式典をやって終わりというのはものすごくもったいないよね、市の行事じゃなくて、市民総ぐるみの皆で盛り上がる、そういう1年間にしていきたいなというふうに思っているんです。

今日引越してこられた方も、あるいはもう代々この川崎に住まれている方も、自分たちの川崎のことをもう一度深く知っていただいて、好きになってもらう。そういう100周年につなげていきたいと思っているんですが、今日はこの中原区で多彩な人たちが集まって、このColors, Future! から具体的なアクションにつなげていこうと。そのような今日は議論ができればと思っております。

これだけ多彩な方がいらっしゃるので、掛け合わせると、あのロゴマークですね、光の三原色になっているのですが、これはいわゆる重ね合わせと無限の色を生むと、1つとして同じ色はないよねという、こういう価値をつくれるのが私たちのまち川崎だということを表しているわけですが、今日この20名だけでもいろんな重ね合わせことによって新しい価値、魅力というものをまた発信できるのではないかと。多くの区民の皆さんを巻き込んでいきたいと、そういう議論のきっかけに今日はしていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いいたします。

司会：市長、ありがとうございました。

それではここから、市長との意見交換に移らせていただきます。初めに、本日の車座集会の開催について、簡単にご説明いたします。

今回のテーマは「Nakahara Actions for KAWASAKI 100th」でございます。皆様ご承知のとおり、中原区は武蔵小杉駅周辺をはじめとする転入者の増加などにより、地域とのつながりが薄い住民も多くいらっしゃいます。そのような中、コミュニティーの基盤をつくるために、地域が主体的に取り組むまちへの愛着づくりが必要とされており、区役所としても、利便性だけではない住みやすいまちを目指して、多くの地域資源を活用した魅力づくりや魅力発信などに取り組んでおります。

本日お集まりの皆様におかれましては、暮らしやすい地域、魅力ある地域づくりに向けた思いや取組を、ふだんから、日々の活動の中で実践されているのではないのでしょうか。

川崎市は、令和6年7月1日に市制100周年を迎えます。今回は、市制100周年とその先の100年に向けて、規模の大小にとらわれず、皆様がお持ちの、あるいは自ら取り組む中原区の魅力づくり、魅力発信のアイデアをMy Actionとして、共有や意見交換をさせていただくこととしました。区役所としましても、開催後は今回の成果を基に、具体的な行動、Nakahara Actionsにつなげてまいります。

また、このNakahara Actionsの推進に向けて、今回ご参加の皆様にもご協力いただきながら、中原区における市制100周年に取り組むプロジェクトの形成を進めてまいります。

そして、皆様のほか、企業、団体、子供など多くの区民の方々からもMy Actionが集まるよう取組ができればと考えております。

なお、現在検討を進めている中原区主催事業について、3つの事業、アート作品の作成、なかはらまつり、100周年記念花壇がございます。今後これらの事業との連携も検討できればと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、本日の進行について簡単にご説明します。

意見交換のステップ1として、皆様に事前に考えていただいたMy Actionについて、お手元のボードで発表していただきます。なお、ボードには本市が100周年記念事業として掲げているColors, Future! Actionsに関わる15のテーマ、Actionのうち、該当すると思われるActionテーマ1つを潜越ながら表示させていただいております。Colors, Future! Actionsについての詳細は、お手元の参考資料をご覧ください。

全ての方の発表が終わりましたら、皆様のMy Actionを正面のボードに掲出いたしますので、休憩時間中に、皆様それぞれ、気になるMy Actionに対して、「いいね!」や「もっと知りたい!」といったリアクションシール、お手元に付箋になっているシールをお配りさせていただきますので、それをボードに貼っていただきます。

意見交換のステップ2としては、このリアクションシールやActionテーマなどに基づいた意見交換を予定しております。

これより、市制100周年とその先の100年に向けて、参加者が自ら取り組む地元愛着醸成に向けた区の魅力づくり、魅力発信の取組「My Action」について、市長と皆様で意見交換をしていただきます。

それでは、ここからの進行は市長にお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

<市長との意見交換①>

市長：ありがとうございます。

それでは、これから皆さんからのご提案をお聞きしていきたいと思っております。今のところ時間厳守で大体来ていますので、お1人大体2分ということで、皆さんご協力のほどお願いしたいと思います。それでは、同じく井上様からでよろしいですか。では、発表のほどよろしく願います。

井上さん：私のMy Actionといたしましては、ちょっと今回は会社というよりも個人的な意味ですが、私は、きれいな街 きれいな人（人々）にしたい!ということです。

きれいな街とかきれいなという意味合いはいろいろあると思うんですけども、清潔さだったり景観であったりとか、お花がいっぱいあったりとか、それぞれの皆様の捉え方だと思うんですけども、それを実行していくには、1人ではできないことだと思うんですね。それを周りの方々にうまく呼びかけていって協力し合うことで、今度は人と人のつながりで、その人との間がきれいになるという、そういう意味でのきれいな人。美しいとか顔がきれいとかそういう意味のきれいではなくて、人同士のつながりがきれいになったらいいなと思っています。

私は町内会の役員をやらせていただきました。どこの町内会でもやっていることと思うんですけども、毎月1回、道路のお掃除をさせていただいているんです。役員さんで集まって。そのときに、ご近所の方々もぜひ出てきてくださいという札を回しているんですけども、この間、ご年配の男性が初めて出てこられまして、僕は30年ぐらいここに住んでいるけど、こんなのは初めて知ったよと言われたんですね。いや、でもそういうお掃除ってもう30年も40年もずっと続いていることで、え、そうなんですかということで、今までお知らせなくてごめんなさいと済ませたんですけども、それはやっ

ぱりこちらの発信の仕方が下手くそで、うまく伝わっていなかったということだと思っんです。なので、発信の仕方をどうやっていったらいいだろうと、そこがちょっといろいろ考えるべきことなのかなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。

それでは、伊早坂さん、お願いします。

伊早坂さん：私は、皆さんのこれから発表されるMy Actionをサポートしたい！と思っております。

武蔵小杉エリアプラットフォームとしましては、武蔵小杉の駅周辺の公開空地ですとか、それから駅前公園のこすぎコアパーク、そういった場所を借りやすくするために、申請の窓口を一本化したり、申請の書類を何か簡略化できないかとか、ルールを明確化していこうとか、そういった制度づくりを年間を通してプロジェクトで議論して進めています。ですので、皆さんがここを使って何かしてみたい、道路を使って何かしてみたい、商業施設さんのスペースを使って何かしてみたい、コアパークで何かしたいといったときに、そういった制度の部分でサポートするということをエリプラでやっていくのと、あとは私が個人的にこすぎコアパークが完成してから今日まで、協議会の理事をしていたり、武蔵小杉駅周辺のイベントも様々なディレクションをしています。コスギフェスタ、こすぎ盆踊り、夏祭り、まんなかフェス、商業施設さんのクリスマスのイベントなども手がけさせていただいているので、皆さんが何かやりたいといったときに、企画から施工から運営から報告書まで、デザインも含めて全てできますので、そういったところをぜひサポートさせていただきたいと思っております。

ですので、皆さん、ぜひ武蔵小杉の駅周辺で何かやりたいというときはお声がけいただけましたらば、適切な窓口を紹介したり、機材貸出しから企画からご一緒させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。

それでは、岩田さん、お願いします。

岩田さん：私のMy Actionは、デジタルの力でそこに暮らしている人々の理想が詰まったまちというのを実現していきたいと考えています。

中原区の地域デザイン会議の運営をやらせていただいて、そこで区民の方が対話をして、自身の思いを語っていただく場にご一緒させていただいたんですけれども、中原区にお住まいの方、通っている方、いろんな方がいらっしゃいますが、このまちでこういうことをしてみたいとか、まちでこういうことが実現するといいなといった、そういった思いをたくさん皆さんはお持ちであるということ、会を通じてたくさん知る機会をいただいております。

そういった方々のこうなったらいいなみたいな思いの部分、デジタルの力を通じて収集して、その思いを実現する力のある企業だったり、自治体の方だったり、様々、個人で活動されている方にお伝えしていくところをデジタルの力でサポートができないかなと今少し考えているところになります。

この先100年、100周年だったりその先の100年で、このまちが暮らす人の思いで出来上がっていくような、そんなすてきなまちにできる場所のお手伝いができたらいいなと考えております。

市長：ありがとうございます。

そうしたら、岩永さんが代表して、よろしく願いいたします。

岩永さん：私たち川崎フロンターレのほうでは、地域の皆さんとともに、中原を100年続く魅力的な街にしたい！と。

これだけでは漠然としているんですけども、常々地域の方々、お店の方々を回らせていただいたり、区役所の方々とも打合せをさせていただいたりしている中で、常々感じますのは、本当にアクティブな方が多いまちという印象を持っています。そういった力を、いい形で皆さんと一緒にあって、いろいろなことがどんどんできるような形にしていきたいなと思っていますところ。

皆さんには釈迦に説法かもしれませんが、この中原のまちの人口増だったり盛り上がり、川崎を引っ張っている、人口の面というところが非常にある状況ですが、それがこのままずっと、10年、20年、30年も続くということが見えているわけではない。ということは、今こそ次の10年、20年、100年に向けて仕掛けていく、やっていくべきことがあるのではないかとということで、本当に多くの方々と打合せをしながらやっております。

私ども川崎フロンターレは、Jリーグの理念にのっとって、まちが元気になること、それが一番のクラブのやるべきことだと思ってやっているので、Jリーグの試合どころではなくて、そういうところに目を向けて各種取組を行っているところでございます。

私たちは、例えばサッカーの普及をしたいというよりは、まちが盛り上がるために例えばサッカーを使う、サッカーじゃない活動も含めてやるという形で、とにかく地域、まち、市民、皆さんに望まれることを、うちが力になれることがあれば、いろいろなつながりを使ったりカスタマイズしたりしながら行っていくということをやっています。

あとは、行政の方々もそういうスタンスで、ニーズを聞きながら打合せをしているんですけども、そういうやり方をしているのと、例えば地域の方、お店だったり企業の方々だったり、民間の方々、商店街とか町内会もそうですね、その方々との連携の仕方としては、例えばスポンサー企業だったら、いわゆるサッカーとプロの試合だったら広告看板を出すとか、そういうスポンサーの在り方があると思うんですけども、それに頼らずとも、本当にありがたいことに、クラブが創設して26年、その間に本当に地域の方々いろんなことをやらせていただきながら、支えていただきながらやっていく中で、本当に多くのつながりをうちにつくらせていただくことができます。例えば、どなたかがこういうことをやりたいというお話をいただいたら、そのお話だったらココとココとココとココでつなげて、いろんな面白い活動が、こういうふうな内容が生み出せるよねというようなことで、例えば企業の方だって地域の団体の方だって、いろんなつながりをつなぎ合わせて、企画に持っていくというのを最近うちとしても始めておまして、そういったところも含めて、皆さんといろんなことをやっていけるかなと思っていますので、100年どころか1000年続くようなまちになっていければと思っています。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。

では、宇賀神さん、お願いします。

宇賀神さん：よろしくお願ひいたします。

私は、市制100周年の機会に、市民みんなと一緒にしちゃけようということで、今ラジオ体操を通して皆さんの関わりづくりというのをやっております。

最初に、このラジオ体操を始めたきっかけは、コロナ禍において、皆さんやっとながってきたところが、また分断されてしまって、どうも家の外に出ることができなくなってしまった。でも私1人取り残させているんじゃないかという不安を、自ら発信することができなくなっている状況でした。

あと、この活動を始めて、川崎市の現状を確認したところ、令和元年度のアンケート調査によると、

約40%の方、地域のコミュニティに参加していない方の40%の方が関わりを、きっかけをどうしたらいいのか分からないということがありまして、だったらすごくハードルの低い、もういつ休んでもさぼっても来られるということで、ラジオ体操を始めました。

そこで、地域で活動している地域グループの方とか、行政の方に栄養とかフレイル予防とか、認知症のお話とか、そういうことをラジオ体操の場で宣伝していただいたり、広報活動をしていただいております。そこから新たな出会いの場に皆さんが出かけていくということで、次の一步を進めております。

その延長線で、100周年を皆さんと一緒に一丸となってということであれば、私たちは小さな活動ですけれども、じゃあ、皆でこの時間、この瞬間、病院で寝ているじゃないですけれども、入院されている方でも施設にいる方でも、仕事をしている方でも、誰も関係なく、皆でこの時間を一緒に共有しようということがあったらなと思いました。

そのために、いろんな場所に皆が出向いて、じゃあ、一緒に何かをやろうと、最初かわさき体操を挙げたんですけれども、丸ちゃんの歌を歌いながら皆で体を動かすというのを、その瞬間のために、練習するために、次の関わり方のステップのきっかけになればと思って、提案させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

市長：岡田さん、お願いします。

岡田さん：私のMy Actionは、市制100周年を契機に、我々NECレッドロケッツがさらに地域の皆様の身近に感じてもらうというような形の活動をしていきたいと思っています。

我々NECレッドロケッツは、まだまだ地域に根づいていなくて、知らないという声も多く聞きます。我々はやはり皆さんに必要とされて、愛されるチームづくりというところをビジョンに掲げていますので、そうなれるように我々は活動していかないといけないと感じています。

川崎市さんにもあるように、知ってもらって関わって、好きになってもらうというのも、併せて我々もやっぱり知ってもらって、そして地域の皆さんと関わる、そして最終的には好きになってもらうという活動を今後していきたいと思っています。

そのアクションとしては、我々はやっぱり知っていただく、関わっていくというところがまず重要になるとなっていて、会場に行く、デジタルサイネージで知ってもらうというものはもちろんですけれども、やはり今、様々な社会課題があると思っています。高齢化の問題だったり自然保護の問題だったりがあると思うんですけれども、それらの課題解決にスポーツを通じて、そしてNECレッドロケッツを通じて、少しでも解決に向けたところの貢献ができるようになるように、我々も少しでも活動できたらなと考えています。

市長：ありがとうございます。

それでは古家さん、お願いします。

古家さん：私のMy Actionは、スポーツでドキドキ・イキイキ・ワクワクする中原区にしたい！と書かせていただきました。

Fujitsu Sports、アメリカンフットボール、フロンティアーズ、女子バスケのレッドウェブをきっかけに、いろいろな立場・背景・特性を持った人々、川崎市民の皆様と一緒に集まり、ドキドキ・イキイキ・ワクワクするようなことを一緒になって体験できる、そしてつながり合える中原区を、今日来ていただいているフロンターレさんだったり隣のレッドロケッツさんだったり、そういう川崎スポーツパートナーの皆様と一緒に何か盛り上がっていければいいと思っています。

先ほど福田市長から、Colors, Future! Actionのアクションテーマの事をご説明いただきましたが、スポーツはこのアクション13番に所属しています。ただこの13番だけじゃなくて、スポーツ×例えばこの3番のビジネス・インキュベーションであったり、スポーツ×Well-beingであったり、スポーツ×グローバルだったり、スポーツ×学びみたいな形で、いろんな発展がスポーツにはあって、掛け合わせができると思っています。そこで、その掛け合わせプラス私も富士通のテクノロジーであったりイノベーションみたいなものをセットにして、中原区を皆さんと一緒に盛り上げていくことができれば、次の50年、100年、それこそ先ほど言われた1,000年みたいな形の発展が目指せるんじゃないかなと。明るい未来になるんじゃないかなと思っていますし、他の自治体さんもやっぱり川崎市のスポーツはすごいよね、やっぱり注目度があって、あまりはつきりとは言わないんですけど、どうもベンチマークしているっぽいんですね。そういった形で注目されていますので、その注目にも応えられるように、日本の中でもいろいろ明るい未来を発信できるような川崎市、中原区にしていきたいと、していければいいかなと思っています。

市長：ありがとうございます。

それでは、佐野さん、お願いします。

佐野さん：よろしくをお願いします。

キーワードでは、デザインで中原区・川崎市を元気にしたい！と漠然としているんですけども、皆さん、キーワードとして魅力という言葉が使われていると思うんですけども、私はその魅力って何だろうというのを、もしこの場で意見交換できればとてもありがたいなと。それをうまく伝えるのがデザインだったりするわけで、例えばユーモアさだったり、スポーツで言うとか強さとか、ひたむきさだったり、そういう瞬間瞬間のシーンですね。あと、本当にちょっとしたエスプリが利いたアイデアとか、何か少しずつのアイデアを足していくことで、バージョンアップできていくんじゃないかと。それを形にするお手伝いができればと思っています。

去年フロンターレさんでやらせていただいたワークショップで、これを皆さんに作ってもらったんですね。100人ぐらいの方に試合前に。何でこんな形かという、ユニフォームがタイルがテーマだったので、こういうタイルをテーマに何か考えてというちょっとむちゃぶりだったんですけど。それでスマホスタンドというのを参加者の皆さんに作っていただいたり。

あと、例えばノースフェイスさんというスポーツショップがあるんですけども、ラゾーナ川崎のほうで、芝生の広場で人が集まるように、これもそこでは80人ぐらいに作っていただいて。でもいろんな場所でトータル400人ぐらいの方に簡単に工作してもらおう。作ることで物が普通に売っている物ではない価値が生まれると思っています、多少曲がっていたり傷がついていても、作った人も喜ぶし、それをもらった人も実はとても価値がでるという、そういうワークショップを幾つかやらせてもらっているので、何かそういうお祭りとかイベントで結びつきができればちょっとずつ元気になるんじゃないかと考えています。よろしくをお願いします。

市長：それでは島田さん、お願いします。

島田さん：いささか抽象的な表現になってしまったんですが、市制100周年の機会に川崎市を盛り上げるお手伝いをしたい！ということで。

グランツリー武蔵小杉は、皆さんご存じのとおり商業施設でございます、お客様に快適なお買い物環境をご提供するということが本業ですけども、一方で地域の皆様に愛されるサードプレイスとして、

地域の人々と皆さんをつなぐハブの役目でありたいと常々考えております。

今年も開催する、今年で3回目になりますけれども、KOSUGI SPORTS FES、こちらは中原区役所様、それから地域のスポーツチームさんとグランツリー、一緒に地域の皆様の健康増進、それからスポーツに親しんでもらう機会をつくるべく、館内挙げてイベントを行っております。

また、今年はなかはらSDG sまつりということで、今年初めての開催になるんですけれども、3月に。平間小学校の生徒さん、中原区役所さん、またこちらもスポーツチームの皆さんと地域の子供たちにSDG sを考えてもらう機会を創設したいと考えております。

このように、商業施設でありながらいろいろな地域の皆様に愛されるイベントを行っているんですけれども、ぜひここにいる皆様と一緒に、新たなイベント、そして場所の提供だけでなく一緒に企画運営を行ってまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

園部さん：私は、ダンスラボラトリーと言っておきながら、全くダンスではないことを考えております。すみません。

中原のまちを花でいっぱいにできたらなと考えています。先ほど、井上さんもお花が大好きとおっしゃっていましたし、さきほどもお花がという話が出ていたかと思うんですね。お花をもらってうれしい、うれしくない人っていらっしやらないかと思います。

中原のまちというのは、パンジーが日本で一番最初に栽培されたところとも言われています。そのパンジーもそうなんですけれども、ほかのお花もたくさん、花手水という形でまちにできたらいいかなと思っています。

来年、川崎市が100周年というのと同時に、緑化フェアもあると思います。緑化フェアはいろんなイベントを考えていくことが川崎市さんではメインになっているかと思うんですけれども、緑化フェアをスタートとしてお花を植えたり、緑を植えたりということを、市民レベルで行っていきたいと考えています。

その中で、花手水、例えば神社仏閣にある、今コロナでほとんどお水は入れていないですけれども、神社仏閣にある手水鉢の中にお花を浮かべるといのもとてもきれいで、京都とかではよく用いられているんですけれども、そういったようなことが川崎でもできたらいいなと考え、次の100年に向けて長い目で少しずつやっていければなと思っています。また、そのやっていく人たちが障害の人だったり高齢の人だったり、それから幼稚園に送り出したママだったり、短時間雇用をしたいなと思って調べたら、何と川崎市は都道府県の中でも一番最初に短時間雇用を設けていたというのを読みまして、それでは何か、もしかしたらいいお知恵をいただけるかもしれないと思って、新たな100年に臨んでいきたいと思っています。

市長：高田さん、お願いします。

高田さん：我々の商材としましてはもちろん海苔になってしまうんですが、海苔を通してできることというところを模索し実行したいということ、漠然なタイトルになってしまっていますが。

一昨年、創業120周年を迎えさせていただきまして、それを機に次の100年というのを、改めて次の世代にというところを考えまして、温暖化が進んでしまって海苔がもしかしたら100年後には取れないかもしれないとか、そういう大きな問題に対して我々みたいな大きく活動ができないところでも、身近なところからエコバッグを配ってみたりとかいろいろな活動はしているんですけれども、やはり大きな発信力であったり、皆さんに周知してもらおうというところがなかなかかゆいところに手が届かないということも出てきてしまったりするので、海苔を通していろいろな、中原区に限らず川崎

市さんであつたりいろんな企業さんとコラボなどをさせていただきながらいろんなものを発信していければと考えております。

実際に実現したもので言えば、中原区さんではないんですけども、川崎市にstudio FLATさんという、障害者さんの独立支援をされている団体さんがいらっしゃいまして、そちらが障害者のアーティスト、パラアーティストさんの絵を通して独立の支援をされているんですけども、そちらの絵をデザインした海苔のパッケージを開発させていただきまして、そちらの海苔を買っていただいた売上げの一部をその施設さんに還元するという取組をさせていただいております。

そういうような形でパラアーティストさんの周知につなげさせていただいたり、川崎市の中原区には100年を超える海苔屋さんがあるんだよというところを知っていただいたり、いろいろなコラボをしながら拡散していきたいと思っておりますので、今後も何かこういうことをやりたいんだ、海苔を通してやりたいんだとか、そういうご意見をいただければなと思ひまして、こちらの会議ではいろいろとご意見を聞かせていただければと思ひます。

市長：それでは、橘さん、お願いします。

橘さん：私はこの市政100周年の機会に、ここはもっと社会と一体となって価値を生み出すような、そんな仕組みをつくっていききたいと考えております。

私たちのサービスというものが、地域の人たちのご協力をもってその地域に新たな価値を生み出すというものをやっております、今、具体的には地域の人たちの車に広告を貼っていただいて位置情報をいただきながら走っていただいて、それがどれぐらい見られたのかを私たちのほうでデータ分析をして、クライアントの方から宣伝費用を頂いてそれをドライバーさんにお返りする、そんなサービスをやっております。この仕組みは、単純にその地域の魅力を地域の人たちが地域の人たちに向けて発信する仕組みになっておりまして、これはここまでの話でも地域の魅力をどう発信していくかみたいな話が多く出てきたと思うんですけども、その宣伝費用をそのまま市民の方々に還元するということでも、もう広告の地産地消のような形でとてもよい仕組みだと思ひて、これも広めていきたいなということも1つ考えております。

ただ、私たちがやっていきたいと思ひているところはこれだけではなくて、例えばドライバーさん、今もう数千人以上の川崎市で登録があるんですけども、その方々から例えばドライブレコーダーで動画データを頂いたりすると地域の見守りに使えたり、あとは地域の防災にも活用できたりすると思ひますので、そういった形でデータを活用して社会に価値を還元できる、そんなものをどんどん皆様と一緒に生み出していければなと考えております。よろしくをお願いします。

市長：ありがとうございます。

塚越さん、お願いします。

塚越さん：私のMy Actionですけれども、私は、中原区の魅力に精通したい！というふうに書かせていただきました。

先ほど佐野さんからも川崎の魅力なんだろうみたいなお話がありましたけれども、私は今、武蔵小杉東急スクエアに来て5年になるんですけども、それまで川崎市との関わりというのが仕事の中でもなかったもので、このエリアにお住まいの方たちがなぜここを選んだのかとか、何が魅力なのかというのを理解して、お客様に寄り添ったショッピングセンターになりたいと考えております。

そういうところで、一昨年、川崎の魅力を少しでも勉強できればと思ひ、「ようこそ、かわさき検定」

という検定試験を事務所のメンバー4人で受けまして、4人とも無事に合格をいたしました。今年うちの若手社員が2人ほど受けることになっておりまして、そういったところで少し川崎という大きなところではその歴史ですとか、少しは理解ができたかなと思うんですけども、そこからもう少し、今度、中原区のところに入り込んで理解を進めていきたいと思っております、やっぱり中原区のことに対しての理解ができないと、自分がやっぱり腑に落ちていないとなかなかそれは発信するところまでいけないのかなと思っておりますので、今日いらっしゃる皆さんはこのまちに長くいらっしゃる方も多いと思いますので、ぜひ勉強させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

市長：角田さん、お願いします。

角田さん：私のMy Actionは、笑顔で挨拶のできる街にしたい！ということですが、先ほども申しましたとおり、コロナ禍でマスクもして子供たちが、中学生たちが挨拶すると表情もつかみにくかったり、あと、地域の人たちともコミュニケーションが取りにくくなったり、コロナ禍で、それもあって、もともとは中学校として中原駅までの間の掃除とかを定期的に行っていたんですけど、それもできなくなり、私はPTAをやって3年になるんですけども、その中でそういうこともなくなってどうにかできないものかと思ったときに、学校から地域と離れ離れになって何とかしたいよねという話で、じゃあ、何かできるようにしたいねという話の中で、もともと新城、中原地域で、私は、クリーン活動の団体があってそれをやっていて、ああ、これだったら地域とつながられると思ひまして、まず考えていたらご近所さんぽがあって、これで地域の人たちをつなぐ、散歩しながらゆっくり、真剣にごみを拾うわけじゃなくて周りに向けてごみを拾っているんだよということを見せることによって、生徒さんたちはちゃんと地域を掃除、クリーンにしているんだとか、生徒が関わらないときでも周りに向けて私たちがクリーン活動をしていることによって、ごみを捨てにくくなることによって地域がきれいになって笑顔が生まれたりとか、そういう相乗効果が生まれればと思っております。

いろいろなことをやりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。

それでは、中田さん、お願いします。

中田さん：16番のトレンドマスターの中田なんですけど、お年寄りの幸せと創造し、家族の幸せを創りだす！なんですけど、そういうことなんです。

うちのこの猫ちゃんを好きな人は猫が好きの人なわけで、ところが猫を飼いたくても飼えない人って結構世の中にいらっちゃって、例えばアレルギーの問題とか住宅事情とか高齢化によるもう飼えないよねという、大体、川崎市の動物を捕獲して譲渡する方々は、65歳以上の方には譲渡できませんというルールがあるわけです。当然ペットショップでは高齢者の方でもペットを飼えるわけなんですけど、ただ、それを飼った段階で私のほうが先に死んじゃった場合、この猫は路頭に迷うという問題が伴うので生体を飼いきくいという現状があります。

その中で、うちのなでると鳴く猫ちゃんが家に、今回ののは本当の猫がベッドの上にいるみたいなデザインを作っているわけで、おじいちゃん、おばあちゃんが家でニコニコしていると家族も自動的に明るい家族になるというようなこともあるし、もしくは、小さい子が猫が好きとってこれを手に入れた、おじいちゃん、おばあちゃんに見せる、おじいちゃん、おばあちゃんは大感激みたいな構図も多々アンケートでいただいていますということで、これをやっていたら間違いないと、つまり世の中の人々の幸せのコアにこれはできると、それも日本だけじゃなくて世界でできるという確信を持ちながらやっています。

ます。

ただ、問題なのは、資金力がないのであまり一気に拡大できないという問題があります。だからといって、富士通さんやNECさんにお金を頂戴というわけにもいきませんので、今、3つほど作戦を考えていまして、国内におきましてはやはり高齢者事業というのはまず医療から来てその次に福祉が来て、その先にこれがあるというような位置づけなので、それは何かというとウェルビーイングの位置づけだと思っております。市の皆様と一緒に取り組んでいますが、話題づくりが下手だなという、下手だなというのは市の方々と話していてなかなか創造的な話題づくりがしにくいなということがあるので、できれば別途、市長さんにお時間をいただきたいというふうには思います。

市長：それでは、中野さん、お願いします。

中野さん：改めまして、私のはもう見て簡単でございます、みんなを花で癒したい！

園部さんもそのような感じで、私もこちらに生まれて、先ほども言いましたが68年、うちの町会長になって4年になるんですが、うちの町会はその前から町会のエリアにプランターを置かせていただき、当然プランターは水をやらしてもらわなきゃいけないので、そうするとそのプランターに水をやってくれる方、イコールその家の方に了解を得て、それでなるべく見える場所にプランターを置いてもらって水だけはやってくださいと、その代わり年2回、12月でしたらパンジー、6月にはベゴニアという形で一度回収して植え替えてまた置かせていただいていると、今、町内で80か所まで広げさせていただいたんですが。歩いているとチラチラと目につくんです。でもまだまだ80か所では少ないです、はっきり言って。

だから、これをもっともっと広げていかなければなと思いつつ、細々とやらせていただいておりますので、今回このMy Actionということで、みんなを花で癒したい！という言葉をさせていただきました。また、これと同時に、花を見ると小さな子なんかも喜ぶんですね。だから、それイコール、もう小さな子からお年寄りまでニコニコできる川崎市中原区になっていけばいいなと思っておりますので、皆さんのご協力が大事かなと思います。よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。

それでは、畠山さん、お願いします。

畠山さん：私のMy Actionは、中原区の人やモノや情報の発信をしたい！とさせていただきます。

私の勤めているかわさきFMは中原区にございますので、同じ区内にラジオ局があるというのも珍しいと思いますので、ぜひ皆さんの例えばイベント情報とか、こういう人がいる、珍しい人がいるんだよとか、こんなすてきな場所があるんだよとか、夢とか希望とかそういうものも併せてラジオでご出演していただきながら発表していただけたらなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。

守矢さん、お願いします。

守矢さん：私は、中原区をペット&ヒューマンフレンドリーな町にしたい！という思いを持っておりまして、これはペット自身だったり、ペットの飼い主さん自身が幸せに安心・安全に暮らせるということはもちろんですけれども、飼っていらっしやらない方だったり、ちょっとペットが苦手という方もどうやったら一緒に幸せに共生ができるかというところをいつも考えながら活動を行っております。

昨年度、NEC玉川事業場公開空地のほうで、おそらく中原初のペットイベントを開催させていただきました

きました。「なかはら秋のわんにゃんまつり」というところで、1,000名くらいの会員さんと300頭くらいのわんちゃんが集まってくださいまして、地元の方を中心に集まっていただいて交流の場をつくったんですけれども、すごくニーズがあるなということをも自分も体感しました。

現在は、ペットと防災をテーマに、安心・安全なまちづくりというところをテーマに活動を行っております。今、中原区では約1.5万頭のペットが暮らしております、大きな地震とかがあるとその1.5万頭と一緒に被災をするわけなんです。もちろん大切な家族の一員である命を守りたい、ペットの命を守りたいということもそうなんですけど、避難所ではペットを飼っていない方とかアレルギーがある方と一緒に生活をするという状況が生まれますし、あと、武蔵小杉はすごくマンションがたくさんあるのでペットと一緒に在宅避難というのかなり強いられてくると思います。そういう中で、日頃のコミュニケーションだったり備えはすごく大事なのかなと思っております。

私自身がそのペットの防災にすごく詳しいというわけではないので、私もまだまだ勉強中というところなので、専門家の方と、それから地域全体の課題でもあると思いますので、いろんな団体さんと一緒に考える機会というのをつくっていききたいなと思ってます。

今回はペットを起点に防災というのを考えるように、様々な社会課題というものの解決にそのペットというのが何か突破口になるんじゃないかと私はすごくポテンシャルを感じていますので、ぜひいろんな地域の方々とコラボができればなと思ってます。

市長：ありがとうございます。

最後、吉家さん、お願いします。

吉家さん：私のMy Actionは、中原区を「環境にやさしい街」にしたい！ということです。

私は、仕事柄、転勤が結構ありまして、3年に1回ぐらい転勤しています。今の前は大阪の堺というところにおりました。その前は世田谷区の船橋というところにおりました。仕事柄といいますか、ちょくちょく地域の小学校とか中学校の催物に参加していました。卒業式などで校歌を聞いて、最近は涙が出るようになってます。公園が楽しいですとか、自然が楽しいですとか、自分たちのまちが楽しいんだという話を聞いて結構感動します。

先日も近所の木月小学校の50周年式典というのに参加させていただきました。今の小学生はすごいですね、自分でパワポを操作して動画とか画像を映し出しながら説明するんですね。感動してしまいました、その中で矢上川についての取組が報告されました。昔、川崎市といたら公害とか工場とかそういうイメージが強いと思うんですけれども、最近、矢上川にアユが戻ってきたという話を聞いて非常に感動しました。そういうことですので、今後100年、環境に優しいまちをつくって、魚が戻ってくるようなそんな取組に協力できたらなと思います。川崎市自体が多摩川に寄り添っているようなまちですので、ぜひ自然を守っていききたいと思います。

市長：ありがとうございました。

司会：市長からコメントをお願いいたします。

市長：はい、どうもありがとうございました。

すごくいろんなことがありましたけれども、結構サポートをしたい、あるいは発信の協力ができる、いろんなアクションのお手伝いができるという、そういう方たちが非常に多いと思いました。ですから、いろんなことが出てくるこれからのアクションをどういうふうにサポートできるか、広められるかとい

うことのすごくポテンシャルがあると思いました。

それから、キーワードとして花とか体を動かす、体操、スポーツ、こういうようなものも出てきましたよね。非常に面白い、これはもっと聞いてみたいというものがありましたら、第2部でしっかり皆さんで話をしたいと思います。どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

それでは、これから小休憩を取りたいと思います。皆様には、休憩の合間に、前にございますこのボードに皆様のMy Action行動を貼らせていただきますので、そこにお手元にあるリアクションシールを貼っていただきます。大変短い時間となりますが、リアクションシールを貼っていただきつつ、この時間にご休憩を取っていただくようお願いをいたします。

(休憩)

<市長との意見交換②>

司会：それでは、再び市長との意見交換をさせていただきます。

ここでは、皆様からいただいたMy Actionについてリアクションシールを参考に意見交換をしていただきます。それでは、市長、よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございました。いっぱい貼られていて、どこから話を進めていくのか迷いますね。非常にいい例が多い。海苔を通じてできることを模索し実行したいというところに「いいね」がたくさんついていましたし、「もっと知りたい」、あるいは「伝えたい」というふうなものも結構貼られているので、ご感想と、それからシールを貼られている方でもっと知りたいとかシールを貼られている方に聞いてもらってもいいですか。

市長：じゃあ、お隣の橘さんから、もっと知りたいポイントってどんなところでしょうか。

橘さん：ありがとうございます。

ちょっと僕もこれまで生きてきて、海苔と深く関わってきたことがまだないというところで、本当に海苔を通じてどんなことができるのかなというのは、今日お話を聞いて自分もそれをやってみたくって貼らせていただきました。

市長：ありがとうございます。

伊早坂さん、いかがですか。

伊早坂さん：食べ物の話題が、高田さんのみだったかなと思って大変気になりまして、私、かわさきFMさんで番組を毎週生放送してまして、ぜひ海苔のことを発信してお話したいとお話を聞いていました。ですので、ラジオ番組を通じて皆さんが知りたくなるような海苔の話を発信していただけないかと思って貼らせていただきました。

高田さん：ぜひよろしく願いします。

伊早坂さん：よろしく願いします。

市長：もう1人、どなたでしたでしょうか。高田さんのところに「もっと知りたい」……。

岡田さん。この辺りに「もっと知りたい」方が。

岡田さん：海苔とバレーボールはどういう掛け合わせができるかなと思ひまして、知りたくなりました。

市長：ありがとうございます。

実はなぜ川崎、それも中原区に海苔屋さんがあるのかと皆さん不思議に思われますよね。これは高田さんにしゃべっていただくのがいいと思うんですけど、多分お話だとすごく長い歴史になっちゃうので、昔の川崎の大師の辺りで海苔が取れていて、高田さんのところもそちらがもともとあったところということですよ。

高田さん：そうですね。もともとは川崎駅の海側のほうですね、そちらで創業して、戦争を挟んで倉庫があった中原区に逃げてきて、そこで再起を図ったという歴史があります。

市長：さっき、吉家さんのほうからアユが戻ってきたよというお話がありましたけれども、川崎も多摩川もアユが戻ってきましたし、でも地域が汚染されて海苔が取れなくなった時期もあったというふうな形でこういうことをもっともっと発信して、川崎の魅力の1つですものね。

高田さん：そうです。実際、多摩川にもまだ海苔が自生しているというのを研究している大学さんもいらっしゃるし、しゃべったりするので、実際に立ち会ったりしようかということもあつたりするので、そういうところも発信していければなと思っております。

市長：さっき高田さんのところでご紹介があつたように、いろんなコラボをさせていただいているんですよ。パラアートというか、障害者アートのところと海苔の缶に巻いていただいてというふうな形でつないでいただいているとか、海苔という商品を使ってすごくいろんなコラボができるという、だから、ある意味いろんな可能性があるんですよ。

実は、ちょっとスポーツの関係で言わせていただくと、僕は、毎回スポーツチームがすばらしい成績を上げられると選手の皆さんにいつも何を食べているんですかと聞くんです。実はアスリートが何をふだん食べていることが健康にいいのか、あるいは部活動をやっている若者たちとか親とかはすごい気になると思うんですよ。あるいは、先ほど高齢者に対しても、お年寄りに優しいまちでありたいというふうな話も高齢者はタンパク質不足になっていることって結構あるんですよ。

こういうのをどうやってラジオ体操の機会に、散歩の機会にということ伝えていけるかというところ、すごくいいコラボができるんじゃないかなと思ひまして、アスリート、もうトップアスリートの皆さんが川崎に、こんなにいるところはないので、そういう意味ではグランツリーさんとか、あるいは東急さんとか、こういったところの商業の施設でもそんなことができたなら、コラボできると面白いですよ。ありがとうございます。

さて、もう一方、いきましよう。守矢さんもすごいこの「いいね」も、「もっと知りたい」というのも非常に、多分最多でついているんじゃないかと思ひますが、ご感想も含めて。

守矢さん：私ももっと知りたいんですけど、まず、地域の防災のことも私はまだまだ勉強中なので皆さんと一緒に知っていきたいですし、ペットの防災対策って本当に家1人1人全部違うんですよ。わんちゃ

んの年齢だったり、猫と犬でも体格が違っていたり、小動物でも体格が違ったりとか、マンションに住んでいるか平家に住んでいるかでも全部変わってくるので、みんなで仮説を立てながらどんな解決方法があるかなというのを話して共有するだけでも対策の1つになるのかなと考えています。

市長：なるほど。先ほどのお話で1万5,000頭ものペットが中原区にいる、それに伴ってたくさんの飼い主さんがいるということですから、そういう意味ではこのつながりだけでも、防災に対する情報提供にちゃんとつながることができればこんな安心なことではないですよ。

それから高齢者の、先ほど中田さんの話がありましたけれども、今度生きているペットも、ロボットのペットもという意味でも、飼えなくなったらロボットペットというのかもしれないですし、何かそういうつながりも感じますね。もっと知りたいというふうな、守矢さんにシールを貼った方はいらっしゃいますか。思い出せない。

市長：はい。コメントがありましたらお願いします。

中田さん：そうですね。中原区に1万5,000頭というと、猫の日本の頭数で3,000万匹、犬もそのぐらい飼われているという前提でいくと、確実に15年ぐらいのサイクルで、うちも昨年、1匹亡くなりましたけど結構悲しいですよ。そのときにぴったりだなと思いますので、連携が取れたらうれしいと思っておりまして、「もっと知りたい」ということでございます。

市長：なるほど。ありがとうございます。

ペットを通じたこのつながりとか情報の伝え方というふうな、宇賀神さん、何かコメントがありますか。何か、宇賀神さんのほうで先ほどのラジオ体操を始められてというのでみんなでというのはすてきだなと思って、コロナ禍でもこういう活動をしていただいていたと思うと何とありがたいことか、うれしいことかと思いましたが、こういうつながりという観点から見てどうですか。

宇賀神さん：高齢になって、先ほどもありましたが、なかなか家猫さんとかペットさん、やっぱり寂しい、今までのペットが亡くなってまた飼いたいというときに、再び飼うことがなかなかできなくなってきているということと、あと、独り暮らしとか老夫婦の世帯の方が亡くなったり、入所されたりしたときに、家猫さんたちがそのまま家に帰れなくなってしまったり、家の中に閉じ籠もって亡くなっていたりということで早期発見が必要だなということとか、老後になったときに、入所されるときにどこかに預けたいということでも預けることがなかなか難しくなって、先ほど防災で避難所に避難したときにやっぱりペットが受け入れられる方と受け入れられない方、ペットと一緒にということで避難できずに自宅で過ごされる方といろいろいると思うんです。

ただ、先ほどどうしたらということをお互いに話し合うことで何かいろんなことを、こんなことで困っているんだとか、こんな人がこのまちに住んでいるんだということが分かっていたら、いろんな広がりが見えてくるのではないかと思います。ありがとうございました。

市長：ありがとうございます。

本当に先ほどデジタルの話とかラジオの話もありましたし、いろんな発信の仕方、いわゆる対面でのリアルな口伝えとか口コミというのでも伝え方でしょうし、SNSなんかのデジタルの世界での伝え方というの、それこそこんなにサポートができる人たちがたくさんいるというのほうはうまくつながればすごくいいなというのは感想として思っていました。

お花のところが結構何人かいらっしゃったんですかね。中野さんのところもそうでしたし、花手水、これは具体的ですよ、非常に具体的で「いいね」がたくさんついていますが、多分、感覚的には同じグルーピングかなと、お花でみんなを癒やしたいとか元気にしたいとか勇気づけたいというのはすてきな取組だと思うんですけども、それぞれにコメントをいただくというか、あるいは「もっと知りたい」がついている方にコメントを求めていただいてもいいですか。誰がついていますでしょう。「伝えたい」、「もっと知りたい」といったシール、どなたでしょう。「もっと知りたい」からいきましょう。

市長：島田さんから、お隣同士で。

島田さん：お花のお話が園部さんと、それから中野さんからこういうのが出て、やはり花って人々の心をすぐ癒やすものでありますし、私自身もグランツリーの屋上で季節の花を植えているんですけどもすぐ皆さん喜びますので、やっぱり花ってすごくいいなと思うので、これをもっと広げられたら、大きなものにしていただけたいなと思ってつけました。

市長：はい、分かりました。ありがとうございます。

実は、先ほど園部さんから都市緑化フェアの話をしていただきましたけれども、あれはイベントをやるということ、イベントはやるんですけども、実は園部さんをご指摘いただいたように、あれをイベントで一過性のものにしようとか全然思っていないんです。あれをきっかけにして緑の価値を都市の中で、川崎の中で高めていこうと思っていて、1つは今回の100周年は「行動を文化に」というキーワードで少し私は言わせていただいているんです。

ですから、例えば花を、例えば中野さんの町会のようにプランターを置くと、花でまちが飾られているというふうな行動が、5年後、10年後になったら、80か所って聞いてすごいなと思ったんですけども、それが川崎中になっていたというのはもはや文化の世界ですよ。だから、100周年のこういう機会を通じて、こんなことが広がったらいいよねというふうなのをみんなの力でどういうふうにできるかということのをこの後につなげていければいいなと思っています。そういう意味では、スポーツの世界というのも非常に応援する、あるいは自らという、フロンターレさん、何かいいアイデアはないですかね。サッカー、スポーツ、お花、岡田さんでも結構ですけども、何かアイデアが。どうぞ。

岩永さん：お花、当たり前ですけど、うちも等々力緑地の中の等々力陸上競技場、ホームスタジアムがあるところで花壇とかはもう常々見させていただいていますし、例えば川崎フロンターレの胸にあるエンブレムなんですけど、川崎のツツジがエンブレムに描かれていたりするんですね。

やはり皆さんが親近感を持って身近に気軽に楽しく触れられるものがお花だったりするものなので、私たちも便乗してツツジをここに添えさせていただいていますけれども、例えばお花だけに限らずですけど、実は今日の午前中も緑化フェアに関わる部署の方々と一緒に企画を等々力で実施しております、緑化フェアにもつながるよとか、昨日、一昨日なんかはまた別の部署の方と緑という側面でふるさとの小道の散歩道のマップの作り直しをどうしようとかご相談させてもらったりとか、いろんな形でうちは関わらせていただくことができるので、それをスポーツと絡めて、例えば散歩道だったらウォーキング教室をうちが開いてみたり、お花をめぐるようなツアーを組んでみたりというのはもちろんできますし、いろんな可能性があるなと思っていますね。

市長：なるほど。

さっき散歩の角田さんのところも、ただ散歩するんじゃなくてごみを拾いながらという、あれも親和性の高い非常にいい取組でいらっしやいますよね。そことフロンターレとかスポーツチームなんかと一緒にって時々やるとかというのも楽しいですよ、絶対。子供たちも大人たちもみんな参加しませんかという。角田さん、いかがですか。

角田さん：すごくありがたいお話で、西中原中学校でいうと部活がすごく活発なところなので、各方面のスポーツ選手の方とその部活の子たちと一緒にできたら本当に子供たちの気持ちの向上にもつながると思いますし、本当にすばらしい取組と思います。

市長：ありがとうございます。

実はこの前、フロンターレの社長に言ったんですけど、障害のある方がつくっているお花があって、そのお花はバタフライピーというんですけど、その花びらでお茶を入れるとフロンターレブルーになるんですよ。味が全くないお茶なんです。なので、何にでも代えられるから、これは何かやりましようと言ったんです。それはフロンターレを応援することにもなるし、障害者雇用を応援することにもなるんですよ。だから、こういうようないろんなコラボができてくると思いましたね。中野さん、花壇、80か所、本当にすごいと思うんですけど、この際広げたいですよ。

中野さん：広げられれば広げたいんですが、今のところ植え替えるのにやはり20名ぐらいで半日かかるんです。年2回、そのたびに役員とか協力してくれる方に集まってもらって。というのは、80か所置いてあるので回収してきて植え替える、そしてまた同じように配らなきゃいけないという、結構手間がかかるんです。

市長：そうですね。

中野さん：だけど、それがもっといろいろなグループ単位で動けるようになってくれば、それぞれのグループがそれぞれのところに配置できるようになれば、もっともっと数が増えるのかなという気はするんです。

市長：なるほど。

中野さん：だから、2丁目は今はそういうふうにはやっていますが、ほかの地域の方も同じような感じで少人数でちょっとでもいいから少しずつ増やしていけるような何かがあればなという感じはします。

市長：なるほど。

伊早坂さん、こういうサポートって、何かつながりでアイデアはありますか。

伊早坂さん：地域の中で様々すてきな活動がたくさんあって、やっぱりその継続性というところが、担い手がいなくなったりとかそういう様々な課題がすてきな活動にはつきものなんですけれども、やっぱりまず知ってもらう、誰がやっていて、どんな目的で、どんなすてきなところがあるかということを知ってもらうことによって、賛同する方とか協力してくれる方が現れたりするものですので、サポートしようと思ったらいろんなサポート方法が直接的にはあるんですけど、まずこういった機会知ってもらって、また緑化フェアのタイミングで知ってもらって、賛同してくれる身近な方が現れたりするようなこ

とがいいのかないと私は思います。なので、緑化フェアのときに園部さんや中野さんのような身近な小さなすてきな活動が取り上げられてちょっと広まっていくようなのは期待したいというか、そういったことができるといいですよと思います。

市長：ありがとうございます。

知ってもらおうことですよ。

伊早坂さん：そうですね。知ってもらう、身近な方にまず知ってもらって賛同してもらおうというところできたらいいのかなと思います。

市長：ありがとうございます。

実は、僕も80か所もそういうプランターでやっていると初めて知りました。こんなすてきなことをやっているところがあるんだということが広がるだけでも、次の一步につながるというお話ですよ。ありがとうございます。

何か皆さん、コメントがありましたら、あの人に聞いてみたい、ここはどうなんだろうという方、自由に手を挙げていただけますか。

どうでしょう。島山さん、ここはいろんな、かわさきFMでいろいろ取り上げられていると思うんですけども、ここはもう少し掘り下げたいとかコラボしたいというのがありましたら。

島山さん：皆さん、すてきなアクションをご提示されているので、できればみんなと言いたいんですけど、お花の話も知っていただいて、自分たちでできるところからいかがですかというような提案とか、リスナープレゼントでお花の種をプレゼントできるのであれば、その種からまたそこにお花ができてまちにお花が増えていくというような活動もできるんじゃないかと思ったり。

デジタルの話も、ラジオはアナログなんですけど、でもデジタルの話ってやっぱり今後増えていくお話ですし、知っていただいて、ラジオを聞いている年配の方であっても、最近では若い方にもラジオを聞いていただいているというお話もありますのでいろんな世代の方に知っていただける、ペットの防災もそうですけれども、やっぱり困っている方っていっぱいいらっしゃるんだなと思っているので、それをラジオを通じて、ちょっと情報が聞き流しでも何か心に残ったり頭に残ってくださっていれば、お問合せをいただければすぐ回答もできますので、ぜひ応援させていただきたいと思っています。

市長：そうですね、本当に。本月2丁目でこういう取組をやっているみたいな話になると、自分のところでもやってみようかなというふうな町会が増えたら、こんなすてきなことはないですよ。ありがとうございます。

デザインということで、佐野さん、物のデザインもあるかもしれませんが、ソーシャル、社会をデザインするという意味で、皆さんのを見ていかげですか。

佐野さん：すみません。ちょっと話を戻して、お花で今ぼんやりと思いついたことがあります。お花って、大体プランターって黒いプラスチックの容器に入って、それが流通しているのは使われないですか。

中野さん：うちはメインは白かベージュです、プランターの色は。

佐野さん：プランターの、どこかから流通してくると、例えばパンジーを購入する場合に黒いプラスチック

のがメインで、そこを何か変えられないかというアイデアなんですけれども。

実は大量のプラごみになるというのはここ2、3年で言われていまして、紙の会社さんとかが古紙でモールドという、卵のケースをイメージしてもらおうと分かるんですけど、古紙を固めて容器にできて、それが持続可能性を考える取組というのでやっている会社があるんです。

1年ほど前にたまたま福田市長のお話で、川崎のプラごみを集めて、それを皆さんがきれいに洗って捨てているのでほかの県より高く売れるというお話で、ああ、すごいなと思ったんですね。あとはそれをどうリサイクルというか、ペットボトルを含めてプラごみをどう再活用していくかが課題ですとおっしゃった話を聞いて、それがうまく結びつけばの話ですけども、川崎で集まったプラごみがもしかして流通している黒いごみとなって当たり前のパンジーが入っている容器に入ると配られると、それがもしかしたらまた回収されて掃除されて、うまく回ると面白いのかなとぼんやり思ったり。

あと、新聞の印刷のときに多分古紙とか端切れが出ると思うんですけども、それをもしかして容器にできると、それはそれでちょっと面白いなという、ちょっと質問と違いますけれども。

市長：そうですよね。でも、こういうものがだんだんイベント的にじゃなくて継続的にそういうふうになっていくようなものに仕向けていかなくちやいけないですよ。

佐野さん：そうですよね。

市長：それこそ、高田さんのさっきの100年後に海苔が取れなくなっちゃうかもしれないということを身近に考えさせるものから包装とかいろんなものを考えていく、それこそ商業のところ、東急スクエアさん、これからも日本全国でも、あるいは店舗ごとにでもそういうローカルな取組って求められてくると思うんですけども、どんなふうに感じておられますか。

塚越さん：今、いろんな地域にショッピングセンターを持っているんですけども、エリアごとにその地域に根差していこうということをやっているんで、その地域で頑張っている企業さんとかにちょっとしたポップアップみたいなもので出たいたりというのは、今考えているところです。

実は、私も先ほど海苔のところに、「伝えたい」だったかな、ちょっと入れさせていただいているんですけども、うちの中で働いている従業員さん向けに2か月に1回ぐらいお菓子とかそういうのを振る舞いと言ってみんな頑張ってるというふうに配っているんですけども、それを2年前から川崎振る舞いというのを始めていて、川崎の名産品の末広庵のお菓子とかそういうものを配るというのを始めています。

それはなぜかという、働いている従業員さんにちゃんと川崎のいいものを知ってもらって、そうするとそれが接客に生かせるというところがあるかなと思っているので、それで何かその従業員への振る舞いとか、あとはちょうど来年が10周年なのでオリジナルのパッケージの海苔をつくっていただいたりとか、何か一緒にできることはないかなと、ちょっと感じたところでした。

市長：すばらしいコメント、ありがとうございます。これはすごいですね。先ほどのご提案の中でも「かわさき検定」を受けていただいたという、地元で根差そうというこの意気込みとか思いというのがすごくうれしいですね。ありがとうございます。

塚越さん：こちらこそ、ありがとうございます。

市長：島田さん、何かコメントはありますか。本当に島田さんのところも川崎の様々なイベントとかにもものすごく協力してくださっているので感謝しているんですけども。

島田さん：そうですね。やはり私も個人的に海苔というものは、当然海が近いのでやっぱりというのがあるんですけど、なかなかこれは子供たちも知らない、大人ももちろん知らないので知らない子供たちも多いと思うので、そういった情報をもっと広められたらいいなと今思っていました。

市長：ありがとうございます。

もっともっとお話を聞きたい、デジタルのところというのはもう少し掘り下げたいと思いましたがけれども、まだ今日は話の1つのきっかけということですから、これから始まっていくことなので、この後は板橋区長にしっかりバトンタッチして、次につなげていただきたいと思うんですけども。区長から、何かありますか。

区長：皆様、今日は大変すてきなMy Action、ありがとうございました。

実は、僭越ながら私もMy Actionをつくって、いつ、市長に振られるかと思っていたんですけども、いつも大抵何か振られるかなと待ち構えていたんですけど、なかなか振っていただけなかったもので、改めてちょっと私のMy Actionを披露させていただきたいと思います。

私は、皆さんのアクションをつないで、この中原のまちをもっと元気に魅力あるまちにしていきたいと思っていて、今日、皆様からいただいたこのMy Actionを見ますと、とにかく皆さん、中原区を元気にしたいという思いは一緒だと思うんですね。それがスポーツであったり、ペットであったり、お花であったりというふうに思いましたので、ぜひ私も中原区役所は皆様をつないでこの100周年、そしてさらに100年を元気な中原区にしていきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

そして、実はまだ具体的なものは決まっていらないんですが、今年の夏にプレイベントで、コアパークを中心に何か夏にイベントができないかなと今思っています。ぜひこの皆様の発信力、それから行動力といえますか、それぞれの持っている力を連携させていただいて、ぜひ夏祭りを盛り上げていきたいと思っていますので、引き続き、先ほど市長からもございましたように、このメンバーで2回目、3回目というような形で何かお集まりできるような形を中原区役所は考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございました。

皆さん、本当にお忙しい中、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。今、区長から話がありましたように、今年は100周年のプレというふうな形なので、まだみんなで今盛り上げていく段階になりますので、ぜひいろんな知恵を重ね合わせて、人を巻き込みながらいいものをつくっていききたいなと思っています。

実は、この打合せをしているときに、今日、司会をやっている田中さんが名札のところは何だろうと、お花がついているなと思ったんですね。小さくて分かりづらいかもしれませんが、実はそれってもしかしてパンジーですかみたいな話を聞いたんです。中原区の花、パンジーですよ。だから、実は中原区を愛することをこういうのでやっていたというのをすごくすてきですねとお話をしたんです。これも1つのMy Actionですね、みたいな話をしたんですけど、ちょっとした行動とか意識が変わるとこんなすてきなことがみんなでやれたらいいなというふうに思いますね。

先ほどの宇賀神さんでしたかね、みんなで一斉に同じタイミングで運動してみたらどうだろうとか、

みんなで一緒にやるというふうな感覚は、どんなことでもいいんですけども、やればすてきなのではないかなと思いました。

今日ご協力いただいた皆さんに心から感謝を申し上げたいと思いますし、これを次に必ずつないでまいりたいと思っています。ご協力ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

以上をもちまして、本日のテーマ「N a k a h a r a A c t i o n s f o r K A W A S A K I
1 0 0 t h」の意見交換、第54回車座集会は終了になります。皆様、ご協力をいただき誠にありがとうございました。